

12月といえばクリスマスのイメージですが、やはり日本人であれば昔から伝統のあるお正月の飾りについて知っておきたいですね！鏡餅はその一年間みんなのところへ幸せを持ってきてくれる神様のお家、飾りや飾る場所などそれぞれ意味がありますので来年は好きな場所に置いてみたりお正月を楽しみましょう！



四方紅(しほうべに)
 四方が紅い白い紙。この紙は災いを払う意味がある

橙(だいたい・代々)
 実が木についたまま落ちずに年を越すことから「代々」家が栄えるという意味がある

裏白(うらじろ)
 裏が白いことから「清潔潔白」であるように葉の様子が対になっている所から夫婦仲良く白髪になるまで長寿を願う意味がある

紙垂(しで)
 実った稲穂が垂れ下がっているのを表し、五穀豊稼を願う。また紅白の赤色には魔除けの意味がある

餅の食べ方に注意！
 餅は日本の伝統的な食べ物です。のどに詰まらせるので危ないといっておさないのではなく、食べ方や与え方に注意しておいしく食べましょう。

子どもに与えるときの注意点

- ① 小さめにちぎる
- ② きな粉などをまぶして食べやすくする
- ③ 切れ込みを入れて焼く
- ④ 口に入れさせすぎない
- ⑤ 食べているときに目を離さない




〔鏡餅〕
 お正月に新年の神様「年神様」が宿り、各家庭に一年の幸福をもたらしてくれます

〔それぞれの飾る場所の意味〕

- キッチン→釜戸の神様、家内安全
- 水回り(洗面台、お風呂場)→水の神様、水に関する災害を防ぐ
- 部屋(居間、寝室)→納戸の神様、家内安全
- トイレ→廁神、女性の出産を守る大切な神様

春の七草

七草がゆは、さまざまな説がありますが、お正月にごちそう三昧だった胃腸をいたわり、不足した緑黄色野菜を補う、という意味があります。本来は、朝ごはんには七草がゆを食べるもの。七草がゆに入れる春の七草とは、「せり」「なずな」「ごぎょう」「はこべら」「ほとけのざ」「すずな」「すずしろ」です。最近はスーパーマーケットなどで便利な七草セットが売られていますので、気軽に試してみましょう。



正月飾りの時期

現在一般的に、飾る時期はクリスマスが終わってから28日頃までになっています。29日は「苦が待つ(末)」、31日は「一夜飾り」となって神様に大変失礼となっています。

服喪の方は正月飾り、お雑煮やおせち料理などはなるべく控えたほうが良いとされていますが栄養を損なわないように食べても良いとされています。

